

江田島市危険家屋除却補助に係る
危険家屋認定事例集

土木建築部都市整備課

○概要

この事例集は本市で実施している危険家屋除却補助事業において過去に認定調査を行い、危険家屋に認定された空き家を事例として取り上げ、認定に至った要点を調査写真と共に掲載しています。認定可否の程度を把握する一つの指標として御活用ください。

○注意点

- ・ 主な要点の紹介であるため、事例と同じような状態の空き家でも他の採点項目によって認定結果が変わることがあります。
- ・ 危険家屋除却補助における「危険家屋」とは、危険家屋除却補助の対象となる空き家のことを指し、危険家屋不認定となっても、その空き家が危険ではないこと、もしくは安全であることを認めるものではありません。

危険家屋除却補助における危険家屋認定事例

○事例 1

建物概要

構造、階数：木造平屋建て

認定ポイント

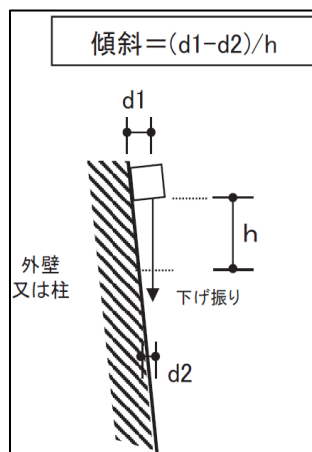
住宅の半分ほどの屋根・床が落下しており、主要な柱に傾きがみられる。



柱の傾きについて

複数の主要な柱の傾斜を測定し、右図の計算式により傾斜の数値を出し平均値を求める。

測定の結果、下表のbに該当し、住宅全体に中程度の傾きがあることが確認できた。



傾 斜		判 定	
傾斜 (d/h)	h=1,200mmの場合		
a	(d/h)≥1/20	d≥60mm	傾き 大
b	1/60≤(d/h)<1/20	20mm≤d<60mm	傾き 中
c	(d/h)<1/60	d<20mm	傾き 小

危険家屋除却補助における危険家屋認定事例

○事例 2

建物概要

構造、階数：木造平屋建て

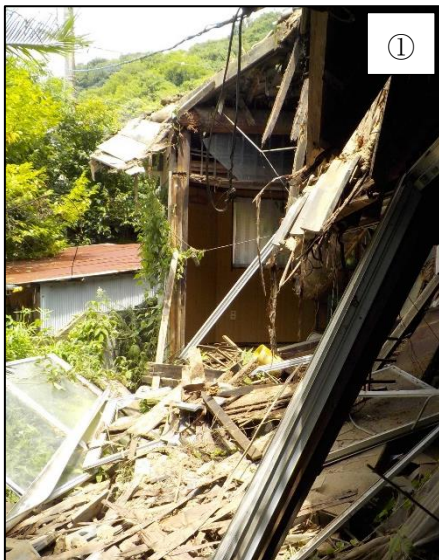
認定ポイント

住宅屋根の一部や一面の壁が崩落しており、構造上主要な柱や梁が破損・落下しているため、立ち入り調査を行うには危険な状態である。目視判定により危険家屋に認定。

写真①：ほとんどの屋根材や壁材が落下している。

写真②：主要な梁が落下していることが確認できる。

写真③：主要な柱が折れ、落下していることが確認できる。



危険家屋除却補助における危険家屋認定事例

○事例 3

建物概要

構造、階数：木造 3 階建て

認定ポイント

外観では破損状況が不明瞭だが、内部は柱や梁の傾斜が著しく、立ち入り調査を行うのは危険と判断。目視判定により危険家屋に認定。

写真①：床梁の破損あり

写真②：柱の抜け落ちあり

写真③：主要な梁と柱が大きく傾斜

